



BOJ *Reports & Research Papers*

2025年2月18日

「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」からみた 地域間連携等の効果と課題

日本銀行青森支店

本稿の執筆は、内田 大義、内藤 伊玖真が担当しました。
本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行青森支店までご相談ください。
転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。本稿の内容に関するお問い合わせは、日本銀行青森支店総務課（TEL：017-734-2154）までお願いします。なお、レポートで示された意見は執筆者に属し、必ずしも日本銀行の見解を示すものではありません。

1. はじめに

- 足もとの青森県経済は緩やかに回復しており、特に観光消費がけん引している。観光は県内外から幅広く需要を獲得できる有益な分野であり、観光需要の持続的な獲得に向けては、県内の豊富な観光資源を地域間連携によって活かすことが重要と考えられる。
- こうした問題意識を有する中、今般、日本銀行青森支店では、県内5つの美術館・アートセンター（以下、美術館等）が連携して実施した「AOMORI GOKAN アートフェス2024」（以下、アートフェス）について、実行委員会から人流データ¹などの提供を受けることができた。このため、本稿では、当該データ等を用いてアートフェス来場者の周遊面の特徴を分析し、分析結果を踏まえて、アートフェス開催に伴う経済波及効果を試算するとともに、美術館等同士や美術館等と他の観光施設との間の連携効果と課題を整理した。

【「AOMORI GOKAN アートフェス2024」の概要】

- ・青森県内にある現代美術を楽しむ5つの美術館等が連携し、それぞれの施設の特徴を活かした多様なプログラムを企画する新しい形のアートフェス。
 - アートフェスの公式ガイドブックでは、各美術館等の展示内容のほかに、美術館等所在地域の観光施設等や、美術館等と観光施設等を巡るモデルコースが紹介されている。
- ・対象施設：青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館
- ・実施時期：2024年4月13日（土）～9月1日（日）

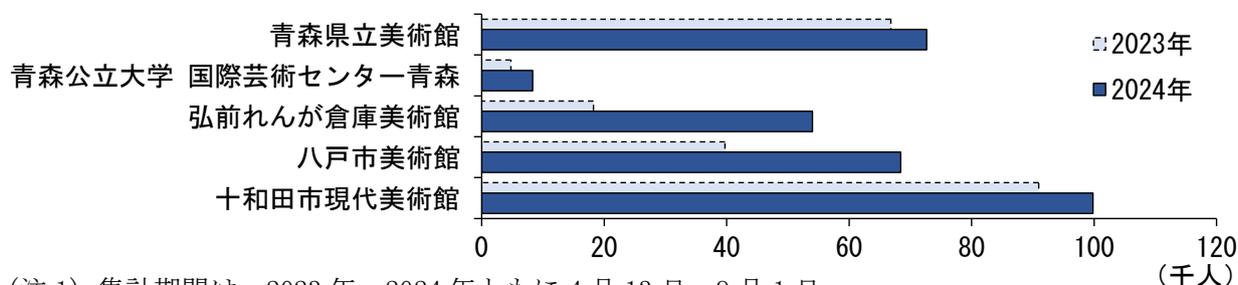
¹ KDDI・技研商事インターナショナルによる位置情報ソリューションサービス「KDDI Location Analyzer」。位置情報データは、auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理が行われている。

2. 人流データ等からみたアートフェス来場者の周遊面の特徴

(1) 各美術館等への来場者数、美術館等間の周遊状況

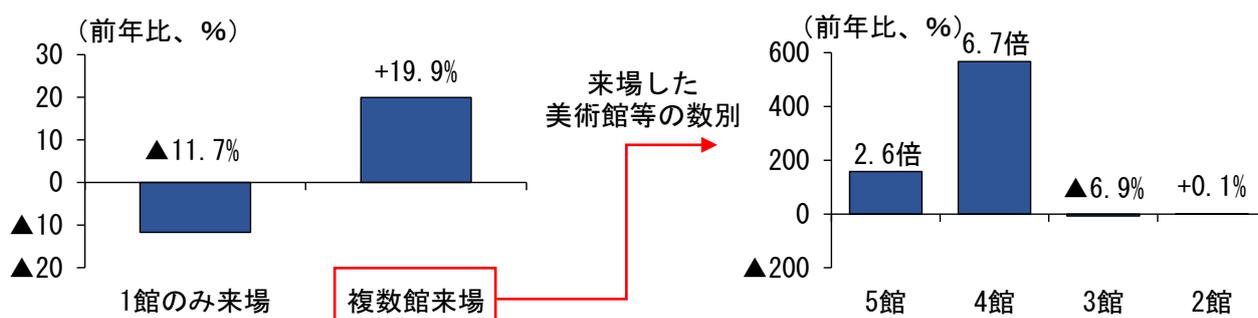
- アートフェス期間中の各美術館等への来場者数は、全ての美術館等において、2023年同期比で増加²した【図表1】。
- アートフェス期間中の美術館等間の周遊状況を見ると、複数美術館等への来場者数は2023年同期比で増加した【図表2・3】。また、同日中における複数美術館等への来場者数は、距離の近い美術館等を中心に、2023年同期比で増加した【図表4】。これらのことから、アートフェス開催により、美術館等間の周遊が活発化したと考えられる。

【図表1】アートフェス期間中の各美術館等の来場者数



(注1) 集計期間は、2023年、2024年ともに4月13日～9月1日。
 (注2) 各美術館等の来場者数は、アートフェス対象展覧会の来場者数。
 (出所) AOMORI GOKAN アートフェス2024 実行委員会

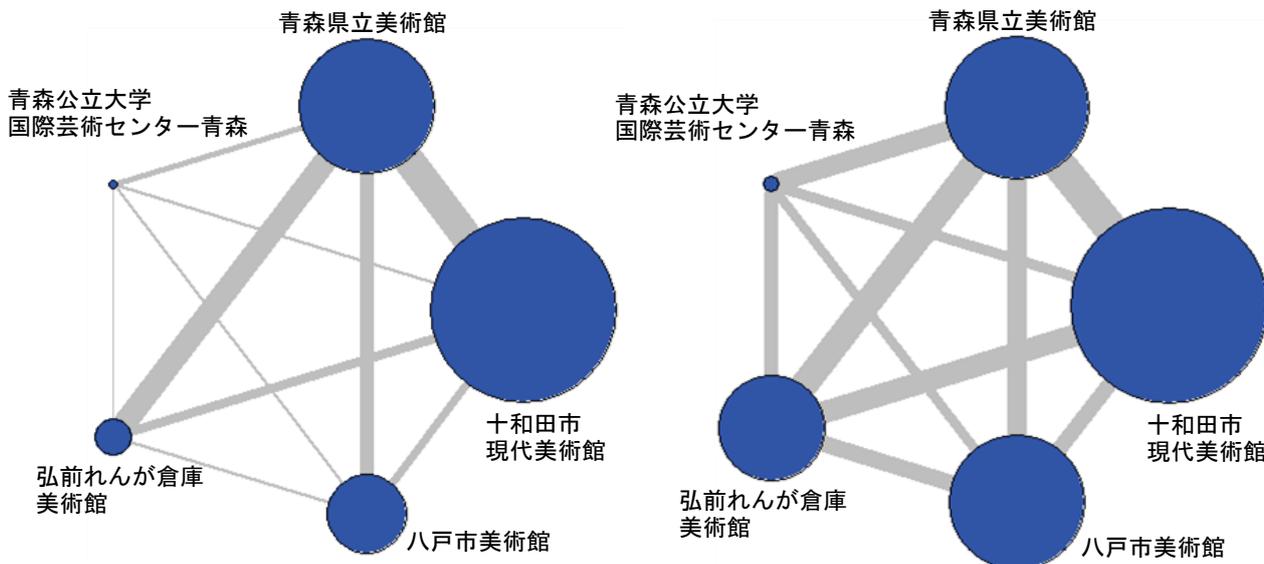
【図表2】アートフェス期間中に来場した美術館等の数別の来場者数



(注) 来場者数はKDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用いて分析した値。2023年、2024年ともに、4月13日～9月1日の期間において、各美術館等に15分以上滞在した人数を示す。
 KDDI・技研商事インターナショナルの人流データを利用する場合には以下同じ。
 (出所) KDDI・技研商事インターナショナル

² アートフェス期間中（または前年同期）に特別展を開催していた美術館等もあるため、アートフェス開催による来場者数の押し上げ効果を明確に特定できない点には留意が必要。例えば、青森県立美術館では、2023年7月29日～9月24日に「生誕120年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ」が開催されていたほか、2024年7月13日～9月29日に「鴻池朋子展 メディシン・インフラ」が開催されていた。

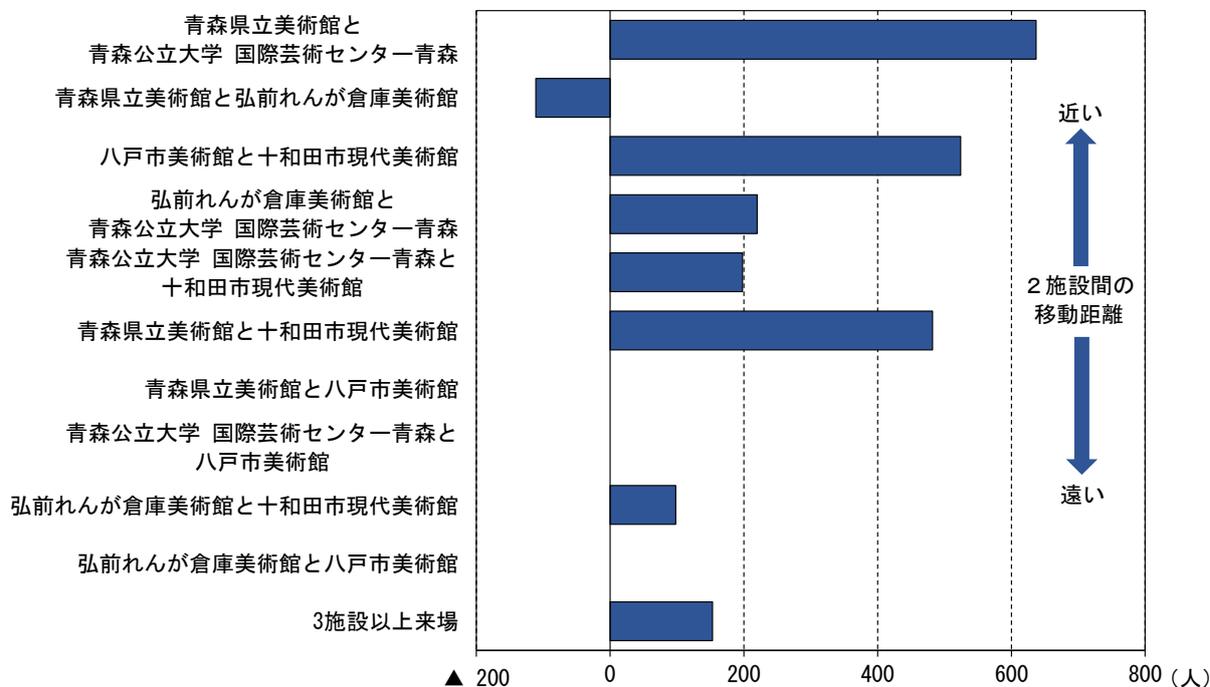
【図表 3】 美術館等の間での周遊（左図：2023 年、右図：2024 年）



(注) 丸の大きさはアートフェス期間中の来場者数、線の太さはアートフェス期間中に接続する 2 つの美術館等とともに来場した人数を表す。丸で示した来場者数は各館集計値。線で示した来場者数は KDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用いて分析した値。

(出所) KDDI・技研商事インターナショナル、AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

【図表 4】 同日中における複数美術館等への来場者数の変化（2023 年差）



(注 1) 同日中の来場者数は、4 月 13 日～9 月 1 日の期間のうち、いずれか 1 日の中で、複数施設を来訪し、それぞれに 15 分以上滞在した人数。以下同じ。

(注 2) 図中「2 施設間の移動距離」は地図アプリに基づく自動車での移動時間。

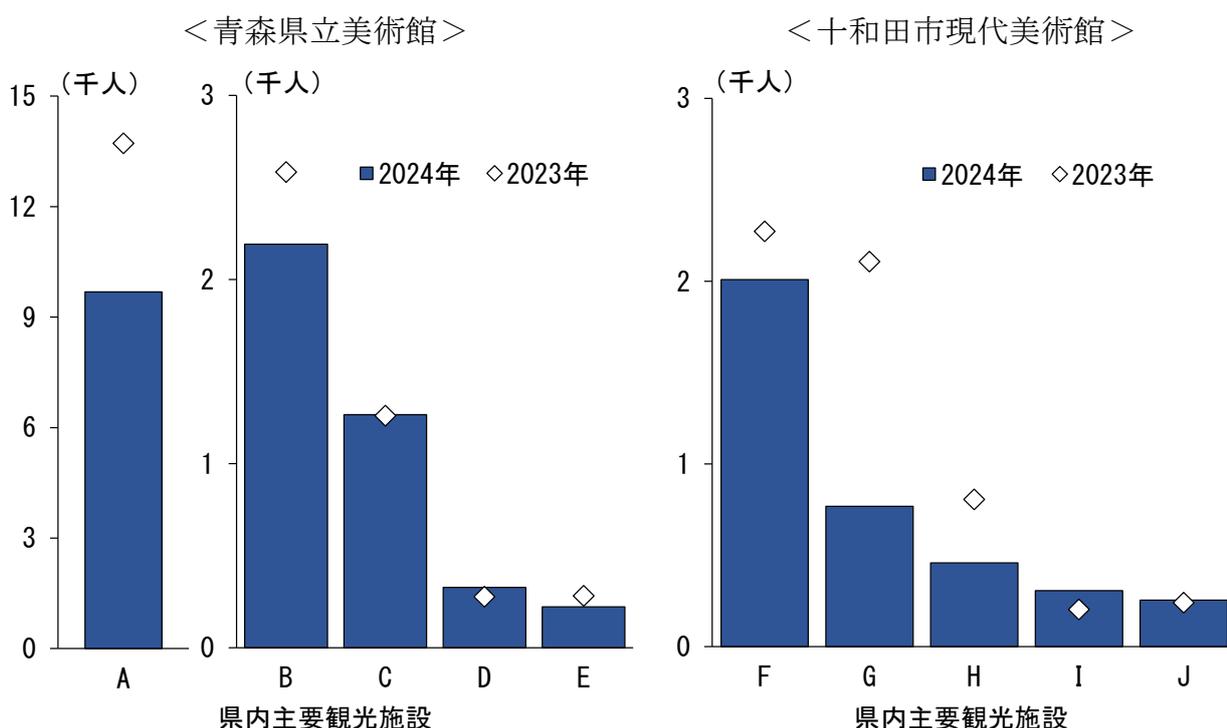
(注 3) 同日中に 3 施設以上来場した人数は、それぞれ 2 施設の組み合わせには含まない。

(出所) KDDI・技研商事インターナショナル

(2) 各美術館等と観光施設との周遊状況

■ 人流データを用いて、アートフェス期間中に各美術館等と県内主要観光施設³の双方を同日中に訪れた人数をみると、2023 年同期比の増減は、美術館等と観光施設の組み合わせによって区々であり、アートフェス開催による観光施設への周遊拡大の効果は明確には確認できなかった【図表 5】。

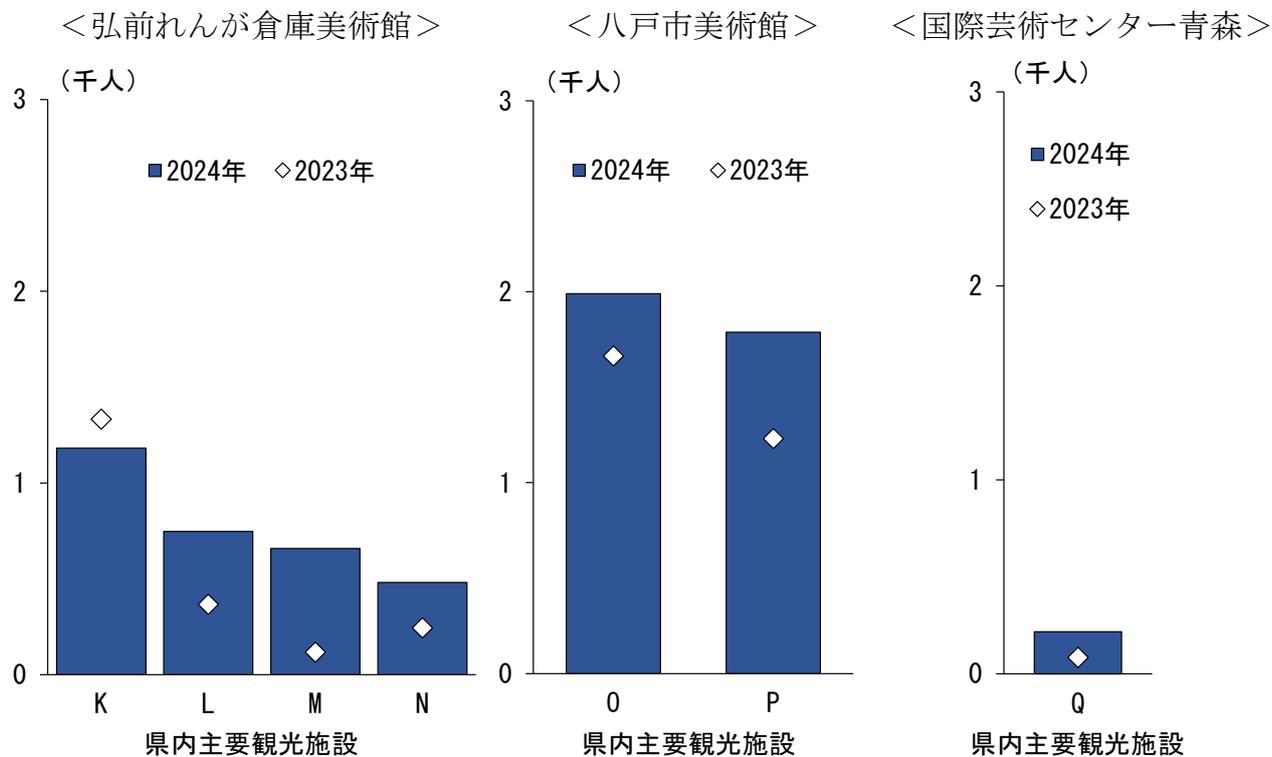
【図表 5】 各美術館等と県内主要観光施設への同日中の来場者数の変化⁴



³ 「青森県観光入込客統計」(2023年、青森県)のパラメータ調査と同様に、東青・中南・三八・西北・上北・下北の6地域から観光施設等をそれぞれ2施設ずつ(計12地点)抽出したほか、地域性を考慮しつつ2023年の入込客数が10万人以上の代表的な道の駅等(海の駅や農産物直売所を含む)を6施設抽出した。このうち観光施設等は、同統計のパラメータ調査地点のうち、①2023年の入込客数が10万人以上の観光施設(十和田市現代美術館は除く)はそのまま引用し、②2023年の入込客数が10万人未満の観光施設は、同地域内に所在する入込客数が10万人以上の代表的な観光施設等(公園等を含む)に代替した。また、③統計上で入込客数が不明な施設は、KDDI・技研商事インターナショナルの位置情報データで2023年の入込客数が10万人以上と推定される場合は、そのまま引用する扱いとした。具体的には、三内丸山遺跡(縄文時遊館)、ねぶたの家ワ・ラッセ、弘前市立観光館、津軽藩ねぶた村、八食センター、八戸ポータルミュージアム「はっち」、高山稲荷神社、立佞武多の館、三沢航空科学館、石ヶ戸休憩所、恐山、大間崎公園、道の駅なみおかアップルヒル、ふじさき食彩テラス、道の駅さんのへ、海の駅わんど、道の駅しちのへ、道の駅よこはま菜の花プラザの計18地点を県内主要観光施設と定義。以下同じ。

⁴ グラフ上では、計18地点のうち、2024年における同日中の来場者数が多い上位5地点、かつ、来場者数が200人以上の地点を描画した。同日中に3施設以上来場した人数は含まない。また、重複する県内主要観光施設についても異なるアルファベット表記をしている。

【図表5】（続き）各美術館等と県内主要観光施設への同日中の来場者数の変化



(出所) KDDI・技研商事インターナショナル

3. 経済波及効果

(試算結果) …具体的な試算方法は補論参照

- アートフェス期間中の美術館等への来場者による青森県内への経済波及効果は49.7億円となり、2023年同期比で約1.4倍に増加したと試算された【図表6】。

(留意点)

- 上記の結果については、複数の仮定を置いて試算しているため、相当の幅を持ってみる必要がある。また、各美術館等への来場者数は、マクロ的な観光需要の動向など外的要因の影響も受けることなどから、経済波及効果の増加額の全てがアートフェス開催による効果ではない点にも留意を要する。

【図表6】 経済波及効果の試算値

	経済波及効果	直接効果	一次波及効果	二次波及効果
2023年	36.5億円	23.7億円	8.2億円	4.6億円
2024年	49.7億円	32.3億円	11.1億円	6.3億円

(出所) 日本銀行青森支店

(参考) 直接効果:各美術館等への来場者による観光消費額やアートフェス開催事業費等のうち、青森県内で生産される財・サービスにかかるもの。

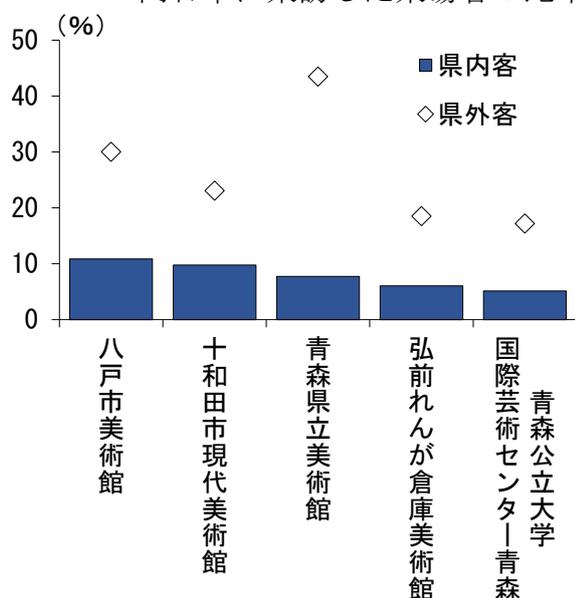
一次波及効果:直接効果によって県内産業にもたらされる生産誘発額。

二次波及効果:直接効果および一次波及効果によって生じた雇用者所得の増加分が、新たな消費に向けられることによって県内産業にもたらされる生産誘発額。

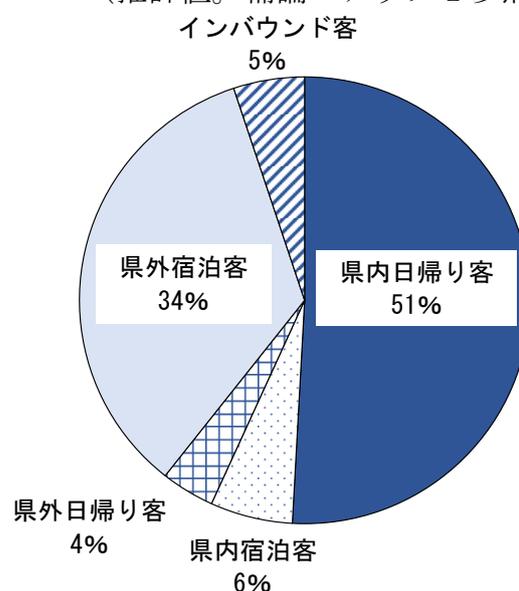
4. 連携の効果と今後の課題

- アートフェスの実施により、各館単独での来場者数に加え、複数美術館等への来場者数が 2023 年同期比で増加するなど美術館等への周遊が活発化したほか、一定の仮定を置いた経済波及効果でも増加するなど、各美術館等の連携効果は相応にみられた。
 - 他方、各美術館等と県内主要観光施設との間の周遊の拡大は、人流データ上、明確には確認できなかった。このため、今後のイベント開催にあたって、観光消費の拡大を通じて経済波及効果を高めていく観点からは、美術館等との間に限らず、地域との面的な連携強化を通じて周遊の動きをさらに喚起するような取り組みが期待される。
- 県内・県外客別⁵に、各美術館等と県内主要観光施設の双方を同日中に訪れた人数の比率をみると、県内客は県外客と比べて同比率が低い【図表 7】。これは、県外客の方が、限られた時間の中で複数施設を周遊する意識が高いという意味で当然の結果ではあるが、来場者に占める県内日帰り客の割合が高いことを踏まえれば、県内客に対する周遊の喚起は、観光消費を拡大するうえで重要と考えられる【図表 8】。このため、前述した地域との連携強化にあたっては、県民をターゲットとした施策の展開も一案と考えられる。

【図表 7】各美術館等と県内主要観光施設を同日中に来訪した来場者の比率



【図表 8】顧客属性別来場者比率 (推計値。補論ステップ 1 参照)



(注) 同日中に 3 施設以上来場した人数は含まない。(出所) KDDI・技研商事インターナショナル、青森県、(出所) KDDI・技研商事インターナショナル AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

以上

⁵ ここでは、便宜上、各美術館等や県内主要観光施設と居住地が片道 80km 以上離れており、かつ、各美術館等や県内主要観光施設の勤務者ではない来訪者を県外客と定義し、それ以外を県内客と定義。

(補論) 経済波及効果の試算方法

▽試算の流れ

- (ステップ1) 顧客属性別の来場者数の推計
- (ステップ2) 観光消費額単価に基づく観光消費額の推計
- (ステップ3) 県内産業への経済波及効果の推計

ステップ1

各美術館等への来場者数について、各館提供データや KDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用い、県内客、県外客、インバウンド客別の内訳を推計した。そのうえで、県内客と県外客については、「青森県観光入込客統計」(2023年、青森県)を用い、日帰り客および宿泊客に細分化し、来場者数を推計した。

この際、各美術館等への来場者のうち、美術館等への来場と同日中に一度も他の県内主要観光施設に来訪していない県内日帰り客については、観光客とみなせないか観光客であっても観光消費への寄与は小さい来場者(以下、観光消費少額者)とみなし、別途、その人数を推計した。なお、各美術館等と県内主要観光施設への同日中の来訪有無は、KDDI・技研商事インターナショナルの人流データを用いて推計した。

▽試算の前提として用いた顧客属性別来場者比率(5美術館等の加重平均値)

		県内客		県外客		インバウンド客
		日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	
2023年	来場者	50.4%	5.9%	4.1%	36.5%	3.1%
	観光消費少額者	46.2%	—	—	—	—
2024年	来場者	50.9%	5.9%	3.8%	34.3%	5.1%
	観光消費少額者	46.4%	—	—	—	—

(注)「観光消費少額者」の比率は、全来場者に占める比率。

(出所) KDDI・技研商事インターナショナル、青森県、AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

ステップ2

ここでは、各美術館等への来場者による青森県内での観光消費額を推計した。観光消費額は、「青森県観光入込客統計」(2023年、青森県)や「訪日外国人消費動向調査」(2023年、観光庁)を基に算出した顧客属性別の観光消費額単価に、ステップ1で推計した各属性の来場者数を乗じて試算した。なお、県内日帰り客のうち、観光消費少額者は、観光消費額算出上の来場者数からは除外した。

ここで算出した観光消費額は、各種統計等を用いた試算値であるほか、各美術館等への来場を主たる目的としていない来場者の消費額も含まれている点には留意を要する。

▽観光消費額の試算方法

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{顧客属性別} \\ \text{来場者数（観光消費} \\ \text{少額者を除く）} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{顧客属性別} \\ \text{観光消費額単価} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{観光消費額} \\ \hline \end{array}$$

ステップ3

最後に、「平成 27 年青森県産業連関表」（青森県）を用い、①各美術館等への来場者による観光消費額、②アートフェスのチケット販売額やグッズ売上高、開催事業費等の一部を需要増加額と仮定し、それらを産業別に分類したうえで、当該需要増加による経済波及効果（直接効果、一次・二次波及効果）を算出した。

この際、青森県経済への波及効果を試算する観点から、開催事業費のうち県外企業への外注費等は、需要増加額から除外した。